

成果の説明書

(氏名) 内山 知一	(学部) 経済学部
1 重要事項 長期にわたり感染症の蔓延下にあるが、教員免許取得が以前と変わらず円滑になされるために、適宜、善後策を協議し、受講者のリスク低減などに努めた。特に、免許取得に必須の講義などは、その特徴上、リスクが避けにくい面があり、時々感染状況にこれまでも深刻な影響を受けてきた。そのなかで、各種オリエンテーションなどの説明の場も活かし、よりよい環境の確保に努めた。また、教育実習は、受講生が現場に赴き、不特定の生徒との接触が不可避であるが、派遣先の状況・希望も踏まえ、細心の注意を払って適切にすすめることができた。たとえば、開始前の受講者の健康記録の徹底やリスクが高い場所の確認、適切な健康相談、感染が深刻になった時のスケジュール変更に伴う出欠の取り扱い・各種の見直しなど、さまざまな処置を求められ、その都度、注意喚起・ルール策定を重ねた。さらに、講義でも、特に模擬授業は、受講生にとっては準備段階で外せない必須のものだが、感染リスク低減のためのさまざまな制約に配慮しつつ、以前と同じレベルの効果をあげることを心がけた。個別のその他の授業でも、感染症のリスクにさらされるなかで、幅広いケースを想定し事前に措置を講じるなどし、受講生の円滑な参加をはかった。そのほか、担当の各種委員の仕事にも従事し、さまざまな面で貢献ができた。 次に、これまでの土台の上に、研究面では、発問の組みあわせごとの効果の違いと授業形態のかかわりをテーマに事例の蓄積・検討をさらにすすめ、複数の観点に従い長所・短所を吟味できた。ただし、感染症で従来のやり方そのものにリスクがあるとされるなかで、これまでのものをそのままでは使いにくい所もあり、効果・課題面で、どこを留意し変更すべきか検討を重ねた。現在の状況がいつまで続くかは不明だが、将来にわたって影響が続く不可逆な側面もあるはずであり、この点は、この先、より詳細に注意深く経過を見たい。	
2 その他の事項	
3 次年度以降の計画・抱負 不透明な所はあるが、感染症リスクがある状態を、ある種あたり前のものとし、そのなかで、円滑に免許状の取得ができる状態を作ることが求められている。これまでの経験で、およそその取るべき方針は見えてきつつあるが、新しい常識が急速に更新される現状では、適宜、自らの認識も変えなければならない。免許取得にむけては、クラスの生徒の前で机上で身につけたことを使う経験や準備段階の模擬授業なども重点が置かれ、リスクに配慮しつつも効果を見すえてできる範囲で引き続きそれらの意義ある場を提供できればと思う。この点は、この先も、受講生が得る利益とかかる負荷などを踏まえながら、よりよい解を求め続けたい。研究面では、歴史上のものも含め、これまでの方針に則り資料などを取得・検討できたが、さらに幅広く事例を蓄積し、併せて、比較などのための補助資料も得る予定である。また、特徴ある事例の精選もすすめ、テーマをさまざまな観点で掘り下げることで、その概観を捉えたい。	